

令和7年度 自己評価シート【東根住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-(1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館の理念、基本方針は事業計画に明文化し、職員会議や掲示にて職員の理解を深めている。児童館だよりやホームページを用いた利用者への情報発信と、地域会議や児童館地域懇談会にて関係機関や地域住民に対して理念や方針の周知に努めている。
1-1-(2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
次年度の事業を計画する際には、前年度実施事業を振り返り、事業の方向性に反映させている。子どもからの意見は可視化し、児童館運営に反映している。	目黒区子ども条例や児童館ガイドライン等、全職員の理解を深めることに注力している。一定の理解はえられるものの職員の勤務頻度によって、情報共有が不足しがちなので、さらに理解を深められる方法を模索していく。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-(1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込でいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	事業計画は、前年度事業の振り返りと児童館ガイドラインや目黒区児童館運営指針の理念をもとに作成している。また、児童館が子どもの居場所として保護者や地域の方々にご理解と協力をいただけるよう連携と情報発信に努めている。
--	--

2-1-(2)

児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。

【判断基準】

- (a) 児童館の施設特性を發揮している。
- (b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。
- (c) 児童館の施設特性を發揮していない。

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	利用者と丁寧に関わりながら、随時要望の抽出を行い、年齢や発達段階に応じた活動ができるよう各部屋のルールやレイアウトの見直しを定期的に行ってい。今年度は新たにリクエストカードを導入し、子どもの意見の反映に重点を置き、運営を行っている。

2-1-(3)

子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。

【判断基準】

- (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。
- (b) 一
- (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館イベント「葉月祭」では実行委員会を設け、企画から当日の運営まで子どもたちが自主的、主体的に活動に取り組む機会をつくることができた。また、職員一人ひとりが子どもに寄り添う姿勢を大切にし、子どもが抱える悩みや不安を話しやすい関係性と環境づくりに注力している。子ども同士のトラブルが起きた際には、お互いの話を聴き相互理解と子ども自身で解決できるようサポートをしている。

2-1-(4)

児童館の理念・目的及び施設特性について

良いと思う点	改善が必要だと思う点
職員会議や子どもの人権ミーティングを実施することで、児童館理念の理解と共有、子どもの対応の振り返りを行い、運営の見直しを行っている。	子どもが主体的に企画するイベントが大型イベントになりがちなため、子ども会議を通じて日常のイベントに対しても子どもが企画するイベントを実施する流れを構築していく。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)

子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。

【判断基準】

- (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。
- (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。
- (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。

【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

a)、 b)、 c) 職員会議にて子どもの状況や気になること等を話し合い、職員間で共有している。不在職員に関しても記録を用いて共有し、連続性の確保と職員間での対応の差異が生じないよう配慮している。一人ひとりの個性を理解し大切にしながら、職員間で共通の認識を持った上で、子どもに寄り添い支援をしている。

2-2-(2)

子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。

【判断基準】

- (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。
- (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。
- (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。

【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

a)、 b)、 c) 子どもの意見や気持ちを大切にしながら遊びに関わっている。また、子ども自身の遊びの選択肢を広げられるよう、声掛けと各部屋の遊びや体験活動の内容を随時見直している。今年度は工作キットを作成し、工作を苦手としている子や自由工作の発想のヒントとなるような取り組みを行っている。

2-2-(3)

子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。

【判断基準】

- (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。
- (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。
- (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。

【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	乳幼児ルーム、ベビールームを除き、原則年齢制限を設けることなく、部屋を利用できるようにしている。安全面の配慮が必要ではあるが、日常的に異年齢交流が生まれている。また、プレイルームでは内容に応じて全学年・高学年・低学年・年中児以上の時間を設けている。必要に応じて職員も遊びに参加することで異年齢交流や交流の輪を広げられるよう促している。
--	---

2-2-(4)

遊びによる子どもの育成について

良いと思う点	改善が必要だと思う点
職員一人ひとりがより多くの子どもと積極的に関わるよう努めている。特に初来館の子や児童館に馴染むことができていない子どもに対しては「また児童館に遊びに来たい」と思ってもらえるよう館内の紹介や、他の子どもたちとの橋渡し役となるべく積極的に介入している。	職員の経験年数や勤務時間数によって対応力に差が生じないよう、継続して全職員のスキルアップと現場内でフォローし合える体制づくりを強化していく。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1)

緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。

【判断基準】

- (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。
- (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。
- (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。

【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	災害時対応マニュアルに基づき、地震・火災・水害それぞれを想定した避難訓練を毎月実施し、有事の際に適切な対応ができるよう備えている。また、子ども自身が身を守れるよう訓練時には指導を行っている。 その他、碑文谷警察署に協力を依頼し、交通安全教室や不審者対応訓練等を実施している。事務室には、事故・怪我・災害時フローチャートを掲示し、全職員への共有とスムーズな対応ができるよう努めている。
--	--

2-3-(2)

利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。

【判断基準】

- (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。
- (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。
- (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。

【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	チェックシートに基づき、開館前に施設点検を実施。運営の中で発生した事故やヒヤリハット案件については、職員会議時に共有し、要因分析と対応策の検討を行っている。
--	--